

ふくおか学力アップ推進事業 実践事例集 Vol. 2

平成25年3月
福岡県教育委員会

はじめに

福岡県教育委員会では、これまでの全国学力・学習状況調査結果から明らかになった本県における学力向上の取組課題「市町村教育委員会・学校の学力向上推進組織の機能化」「教員の実践的指導力の向上」「学ぶ意欲と基本的な生活習慣・学習習慣の形成」の解決に向け、「福岡県学力向上新戦略」に基づき、「ふくおか学力アップ推進事業」を実施してきました。

本事業は、県下の児童生徒の学力・学習状況を調査分析し、市町村の実態に即した学力向上の取組を強化して児童生徒の学力の向上を図るとともに、地域の学力差の解消を図ることを目的としており、次の施策を実施しています。

福岡県学力実態調査の実施及び全国学力・学習状況調査の活用による、県内児童生徒の学力・学習状況の分析結果の市町村・学校への提供

学力向上推進強化市町村（以下「強化市町村」という）の指定及び重点的な支援

- ・ 教育事務所に設置する学力向上支援チームの重点的派遣
- ・ 強化市町村内の小・中学校への非常勤講師の派遣
- ・ 強化市町村独自の学力向上の取組への助成

本事業の実施により、強化市町村では、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る補充学習や小・中学校教員の指導力を高める教員研修、家庭学習の習慣化を図る手引の作成・配布等、実態に応じた学力向上の取組が積極的に行われています。

本事例集が市町村教育委員会や学校において積極的に活用され、それぞれの実態に応じた学力向上の取組のさらなる充実に役立てられますよう期待しています。

平成25年3月

福岡県教育委員会

目 次

| | |
|--|----|
| ふくおか学力アップ推進事業事業内容 | 1 |
| 学力向上のための市町村及び学校の推進体制整備 | 2 |
| ・市町村教育委員会における学力向上の推進体制整備の実際 【桂川町教育委員会】 | 3 |
| ・学力向上推進校における学力向上の推進体制整備の実際 【田川市町教育委員会（小学校）】 | 5 |
| 【須恵町教育委員会（中学校）】 | 7 |
| 市町村及び学校における教員研修 | 9 |
| ・教育委員会における学力向上のための教員研修の実際【築上町教育委員会】 | 10 |
| ・習熟度別指導に関する校内研修の実際【小竹町教育委員会】 | 12 |
| ・「授業改善のStrategy」及び調査問題の活用に関する校内研修の実際 【志免町教育委員会】 | 14 |
| ・繰り返し指導に関する校内研修の実際【上毛町教育委員会】 | 16 |
| 個に応じた指導の充実を図る習熟度別指導 | 18 |
| ・算数科における習熟度別指導の実際【直方市教育委員会】 | 19 |
| ・数学科における習熟度別指導の実際【みやこ町教育委員会】 | 21 |
| 習得した知識・技能を活用する学習指導 | 23 |
| ・算数科における習得した知識・技能を「活用」する指導の実際 【広川町教育委員会】 | 24 |
| 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導 | 26 |
| ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導の実際 【朝倉市教育委員会（小学校）】 | 27 |
| 【飯塚市教育委員会（中学校）】 | 29 |
| 学習習慣形成のための家庭学習 | 31 |
| ・学習習慣定着の取組の実際【鞍手町教育委員会】 | 32 |
| 【久留米市教育委員会】 | 34 |
| 【福智町教育委員会】 | 36 |

ふくおか学力アップ推進事業 事業内容

ふくおか学力アップ推進事業

事業の目的

「ふくおか学力アップ推進事業」は県下の児童生徒の学力・学習状況を調査分析し、学力向上に有効な施策を提供することで、市町村の実態に即した主体的な学力向上の取組を支援して児童生徒の学力の向上を図るとともに、地域の学力差の是正を図ることを目的として平成20年度から実施している事業です。

事業内容

1 児童生徒の学力実態の把握と分析

県教育委員会は、県内の児童生徒の学力・学習状況と市町村の学力向上に向けた取組状況を調査分析するために、学力調査を実施し、その結果を分析して報告書にまとめ、市町村教育委員会や学校に提供しています。

2 学力向上推進強化市町村の指定

県教育委員会は、学力等に関する課題を明確にし、学力向上に主体的に取り組もうとする市町村の内、指定を希望する市町村の中から学力向上推進強化市町村（以下「強化市町村」という）を指定し、次の支援を行っています。

平成24年度 学力向上推進強化市町村

| 教育事務所 | 市町村名 | | | |
|-------|------|-----|-----|-----|
| 福岡 | 須恵町 | 志免町 | | |
| 北九州 | 直方市 | 小竹町 | 鞍手町 | |
| 北筑後 | 久留米市 | 朝倉市 | | |
| 南筑後 | 広川町 | | | |
| 筑豊 | 飯塚市 | 田川市 | 福智町 | 桂川町 |
| 京築 | みやこ町 | 上毛町 | 築上町 | |

非常勤講師の派遣

児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を充実させ、学力の向上を図ることができるよう強化市町村に非常勤講師を派遣する。

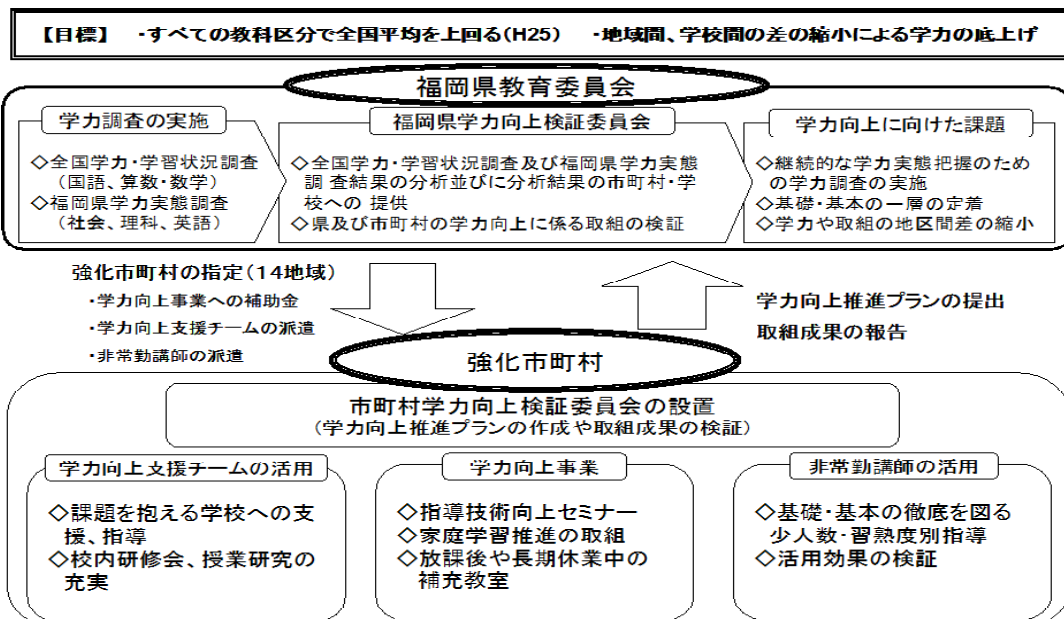
平成24年度は、強化市町村全体で50名の非常勤講師を派遣。

学力向上支援チームの派遣

教育事務所に設置する学力向上支援チームを強化市町村や学校に派遣し、学力向上の実態分析やそれにも基づく推進計画、具体的取組等に関する指導・支援を行う。

強化市町村が実態に応じて独自に行う学力向上の取組について、その経費の2分の1以内の額を予算の範囲内において補助する。

ふくおか学力アップ推進事業



強化市町村の学力向上の取組事例

学力向上のための市町村及び学校の推進体制整備

市町村における学力向上の取組を推進する体制整備

図1は、市町村における学力向上の取組を推進する組織の例を示しています。

学力向上の取組を推進するためには、市町村教育委員会の学力向上推進組織を中心に、児童生徒の学力・学習状況に基づく学力向上策を策定し、具体的な学力向上推進計画に基づいて、学力向上の取組を実施し、検証・改善するサイクルを機能させることが重要です。

特に、市町村の学力向上検証委員会等の推進組織においては、中期・単年度の学力向上の目標設定を定める、目

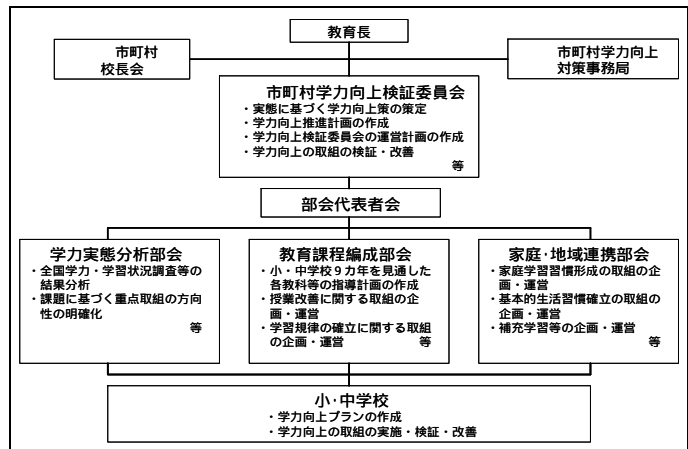


図1 市町村における学力向上推進組織の例

標達成に向けた学力向上の取組状況を定期的に検証することにより、取組の改善を図る必要があります。

また、学校訪問等を活用して、各学校が市町村の学力向上の重点取組や各校の学力向上プランに基づく学力向上の取組が具体的にどのように実施されているか、その結果児童生徒にどのような変容が見られるか等、各学校の状況を把握したり、今後の取組について指導したりすることも必要です。

学校における学力向上の取組を推進する体制整備

図2は、小・中学校における学力向上の推進サイクルの例です。学校においては、校内の学力向上推進組織を核として、自校の学力向上プランに基づき、組織的・計画的に学力向上の取組を実施していくことが必要です。その際、自校の児童生徒の学力・学習状況及び指導の重点について、全教職員で共通理解を図ることは言うまでもありません。

また、日常の授業等において学力向上の取組を効果的に行うために、学力向上に関する校内研修を位置付けることも必要です。

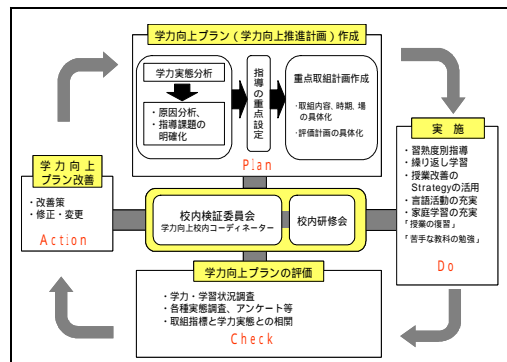


図2 学力向上の推進サイクルの例

図3は、学校における学力向上の取組計画の例です。各学校における学力向上の取組については、年度末だけでなく、学期末など、1年間を通じて定期的に検証することにより、児童生徒の学力の定着状況に応じた指導方法等の改善を図ることができます。

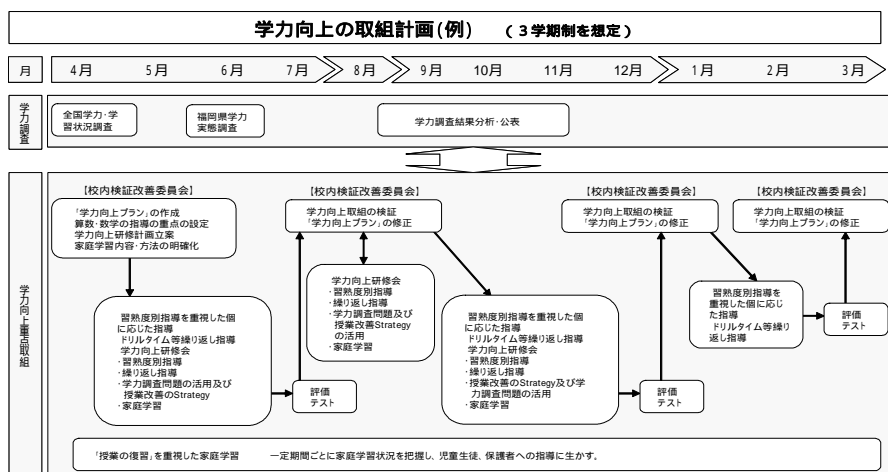


図3 学力向上の取組計画の例

市町村教育委員会における学力向上の推進体制整備の実際

- 小中学校教職員全員研修会及び町学力向上検証委員会での学力向上の取組 -

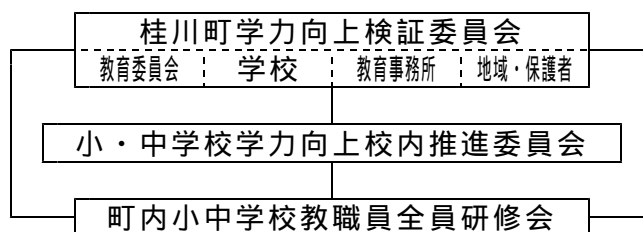
桂川町教育委員会

取組のねらい

桂川町の児童生徒の学力実態を把握し、課題や取組内容等を全教職員で共通理解を図る。

町・学校の学力向上推進プラン及び取組内容の交流を行い、取組の重点化を図ることにより児童生徒の学力向上に資する。

取組の組織



取組の年間計画

| | |
|-----------|--|
| 4月11日(水) | 第1回教職員全員研修会(町長の町づくり構想、教育長の教育方針、学力実態、研修計画等) |
| 4月17日(火) | 第1回校長、教育委員合同研修会(校長の学校経営等) |
| 6月27日(水) | 第1回町学力向上検証委員会(組織、学力向上プラン) |
| 7月31日(火) | 第1回主幹教諭教務主任研修会(小中連携と研修計画作成) |
| 8月29日(水) | 第2回教職員全員研修会(教育力向上に関する講話、小中合同会議) |
| 11月8日(木) | 町研究指定委嘱発表会(本年度は、桂川幼稚園に全員が参加) |
| 11月13日(火) | 授業研修交流会(小中交流) |
| 11月15日(木) | 授業研修交流会(小中交流) |
| 11月22日(木) | 授業研修交流会(小中交流) |
| 11月26日(月) | 第2回町学力向上検証委員会(中間評価、今後の取組) |
| 12月12日(水) | 第2回主幹教諭教務主任研修会(小中連携について) |
| 12月26日(水) | 第3回教職員全員研修会(学力向上に関する発表、小中合同会議) |
| 2月20日(水) | 第3回学力向上検証委員会(本年度の学力目標値の検証等) |
| 2月27日(水) | 第3回主幹教諭教務主任研修会(小中連携について) |
| 3月7日(木) | 第2回校長、教育委員合同研修会(校長の学校経営等の成果と課題) |

取組の工夫点

町学力向上検証委員会

- ・ 1学期に指定校である桂川小学校、桂川東小学校、桂川中学校の学力向上推進プラン及び取組の内容が具体的に分かるものを提示し合い交流する。
- ・ 2学期には、取組の進捗状況が分かるものを提示し合い交流する。
- ・ 3学期に結果の検証等の交流を行い、次年度の方向性を探る。

小中学校教職員全員研修会

- ・ 町の教育ビジョンについて、町長や教育長の講話をもとに研修する。
- ・ 教育の動向や具体的取組について、町の教職員全員が一同に会して研修する。
- ・ 小・中学校の教育活動について、小中合同会議で検討する。

取組の実際

1 町学力向上検証委員会

(1) 第1回 「各校の学力向上推進プラン及び取組内容」

3校が平成23年度の学力・学習状況調査の結果分析を基に、作成の意図を示しながら学力向上推進プランを説明した。その後、習熟度別学習（【資料1】参照）、モジュール学習、学力補充、重点単元を位置づけたカリキュラム等について協議を行った。

| 学年 | 実施時期等 | 指導者 |
|----|------------------------|-------------------|
| 1年 | 2学期 重点単元 | 担任、T T、専科 |
| 2年 | 2学期 重点単元 | 担任、T T、専科 |
| 3年 | 2学期 重点単元 | 担任、T T、専科 |
| 4年 | 学期末 5分割 | 担任、T T、支援加配 |
| 5年 | 年間 T T 夏季休業中5日間 4分割 | 担任、学力アップ講師 全教員 |
| 6年 | 年間 3分割 | 担任、T T、学校支援 |

【資料1】

基礎・基本の定着を図る指導の在り方とともに、日常的な授業改善の必要性を確認し合った。

(2) 第2回 「各校の学力分析と学力向上推進プランの進捗状況及び今後の取組」

3校が平成24年度の学力・学習状況調査の結果を基に、効果のあった取組（習熟度別学習、自分の考えを書く活動、全員授業の実施等）、及び改善が必要な取組（児童・生徒が考える場の設定、公開授業後の協議会等）について中間総括を行った。

調査結果から、書いて表現することに課題があることや、説明中心の授業を改める必要があることを確認し、日常的な授業改善の具体策について共通理解を図った。

(3) 第3回 「学力向上プランの結果の検証（成果と課題）」

第3回では、教育委員や各校のPTA代表にも参加していただき、各校の学力向上の取組を発表し、来年度の取組を検討する予定である。

2 小中学校教職員全員研修会

(1) 第1回

町の教職員全員が一同に会して町長や教育長の講話をもとに「町の教育ビジョン」について研修した。また、児童生徒の学力の状況と本年度の取組について研修した。

(2) 第2回

教育力向上に関する講話をもとに、「教務部」「学力向上部」「社会力向上部」「児童生徒支援部」に分かれて協議し、2学期からの小中連携の方向を探った。

(3) 第3回

速読等、学力向上の具体策に関する発表をもとに、「桂川の児童生徒の学力向上」の視点から協議し、3学期及び次年度の取組の方向性を探った。

取組の成果と課題

小中学校の具体的な教育活動について小中合同会議で検討することで、3校の小中連携が図られつつある。

町の教職員全員が一同に会して研修することで、教育活動の方向について共通理解が出来つつある。

3校の校内授業研修の交流を通して授業改善を図る。

平成25年度教職員研修の年間計画の柱(テーマ)を学力向上と授業改善で計画し、推進する。

小中連携を進めるための校内分掌を整え、校長研修会、教頭研修会、主幹教諭研修会で役割を分担し、さらに小中連携をすすめる。

家庭学習の手引きの改訂等、学力の確かな定着を目指した取組をすすめる。

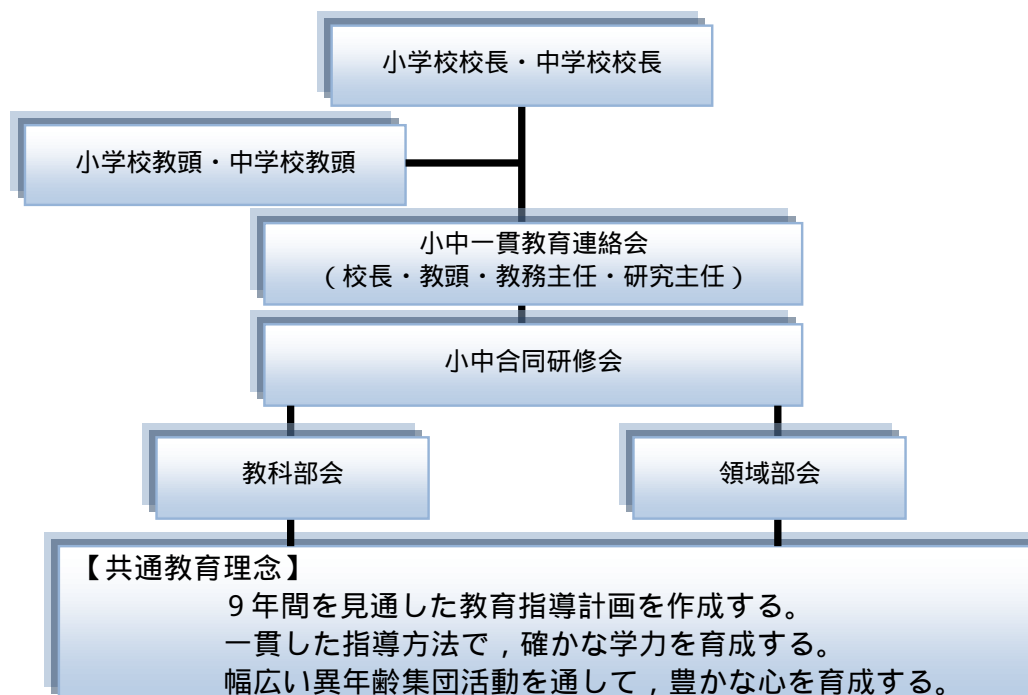
学力向上推進校における学力向上の推進体制整備の実際

田川市教育委員会（猪位金小学校）

取組のねらい

田川市学力向上プロジェクトの各種実態調査結果などから明らかになった本校区児童生徒の人間関係づくりや学習理解力における課題の解決に向け、豊かな自分づくり・仲間づくりをめざした小中一貫教育を創造するために、自己他者肯定感を高める学び方の系統を視点においた授業改善、小中学校の協働実践を目指す。

取組の組織



取組の年間計画

| | | | |
|----|--|-----|--|
| 4月 | 小中連絡会 研究計画の作成 | 10月 | 小中連絡会 小中合同研修会（学校研究） 提案授業（道徳） 発表会指導案・板書研修会（講師招聘） |
| 5月 | 小中連絡会 小中合同研修会（学校研究計画） 指導主事との打ち合わせ | 11月 | 小中連絡会 小中合同研修会（学校研究） 発表会 |
| 6月 | 小中連絡会 小中合同研修会（提案授業に関する） 小中提案授業（社会科） 小中合同事後研修会（講師招聘） | 12月 | 小中連絡会 授業の分析・考察（各学年の成果・課題） |
| 7月 | 小中連絡会 指導案の形式提案 学力向上プロジェクト実態調査実施 | 1月 | 小中連絡会 学力実態調査実施 研究のまとめ作成 |
| 8月 | 小中合同研修会（合同運動会・学校研究） 発表会指導案・板書研修会（講師招聘） 研究紀要作成（部会） | 2月 | 小中連絡会 小中合同研修会（研究のまとめ） |
| 9月 | 小中連絡会 小中合同研修会（合同運動会・学校研究） 小中合同運動会 | 3月 | 小中連絡会 小中合同研修会（来年度の研究計画案） |

取組の工夫点

学校研究の内容に学力向上(学習理解力の向上)を明確に位置付け、小中一貫した授業改善、小中学校の協働実践を実施するために、推進体制整備を以下の点において工夫した。

学力向上を目指し、小中学校全職員参加の研究を推進することができるようにするために、「小中連絡会」「小中合同研修会」「部会研修(教科・領域)」「小中提案授業」を実施。

学力向上を目指し、小中学校全職員参加の研究を実施することができるようにするために、「講師招聘研修会(指導案審議・板書研修)」「研究発表会」を実施。

学力向上を目指し、家庭学習の定着をすることができるようにするために、「家庭学習の手引の作成と活用」「保護者への啓発」を行う。

取組の実際

小中連絡会

月に1回実施し、子どもの学力・生活の実態を交流し、校長のリーダーシップのもとに学校研究の基盤を固め、共通理解を図った。

小中合同研修会、部会研修(教科・領域)

小中連絡会で決定した内容を小中学校全職員で確認し、学校研究の推進を図った。【資料1】

小中提案授業

小学校教員が中学校に乗り入れ、学校研究の内容(仮説と着眼)を実際の社会科の授業(中1)と子どもの姿を通して提案した。

講師招聘研修会(指導案審議・板書審議)

指導主事を招き、学年ごとに指導案審議と板書審議を行い、全学年による学校研究の具現を目指した。さらに、第6学年理科における実際の授業の板書研修会を行い、授業改善の一つの手立てとして構造的な板書について研修した。【資料2】

研究発表会

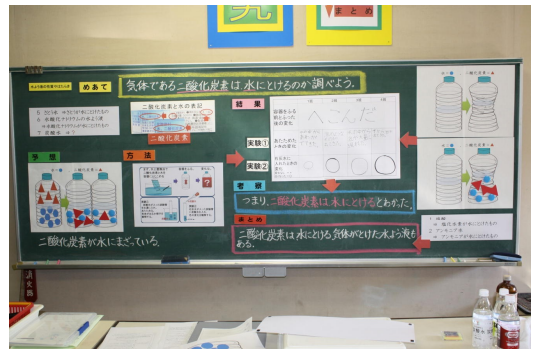
これまでの学校研究の成果を実際の授業を通して発表した。第5学年においては、ふくおか学力アップ推進事業に係る講師を活用し、担任と共同で学習指導を行った。

家庭学習の手引の作成と活用、保護者への啓発

全職員による手引の作成を行い、その手引を全家庭に配布をし、家庭学習の定着を保護者と共に目指した。さらに、家庭学習の中でも自主学習においてお手本となる事例があれば、学級通信等で紹介をしたり、家庭学習強調週間を位置付けたりした。



【資料1】KJ法で研究構想を練る小中合同の部会研修



【資料2】板書から授業をつくった第6学年理科

取組の成果と課題

学校研究の内容に学力向上(学習理解力の向上)を明確に位置付け、小中一貫した授業改善、小中学校の協働実践を实践できたことで、本校区で課題であった人間関係づくりや学習理解力の改善を全職員で取り組むことができた。

第5学年算数科において、ふくおか学力アップ推進事業に係る講師を活用し、担任と共同で学習指導を行ったことで、学力の厳しい子どもに対する支援を手厚く行うことができ、1学期と比べ、「数学的な考え方」が10ポイントアップした。

学力向上の原動力となる学びの意欲の喚起や持続を目指した研究の着眼を位置付け、その実践をしたことで、子どもはこれまでのような指示待ち、与えられたためあてではなく、自らめあてを設定し、学習対象に興味・関心をもつことができた。

授業改善の取組は成果が見られ、実施できたが、朝の活動の時間や補充の時間を使った日常的・継続的にできる学力向上を目指す取組の充実が必要である。(例：速読、計算タイム)

学力向上の原動力となる学びの意欲の喚起や持続を目指したこれまでの取組と客観的なデータによる学力の関係を明確にする必要がある。

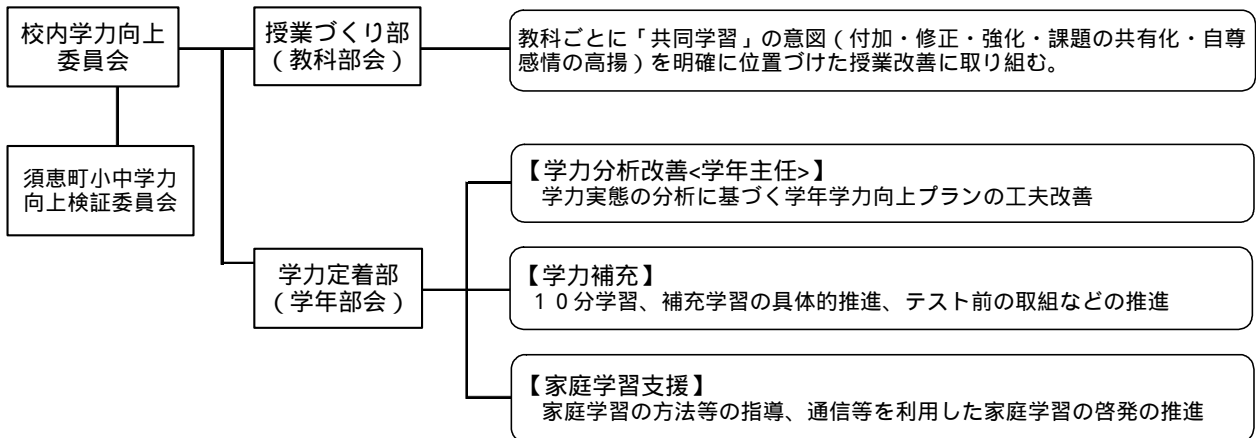
学力向上推進校における学力向上の推進体制整備の実際

須恵町教育委員会（須恵中学校）

取組のねらい

学力向上に向けた教師の課題意識と達成目標の共有化
 生徒の実態に基づいた学力向上のための授業改善と学力補充の工夫
 学力向上のための指導體制の機能化

取組の組織



取組の年間計画

学力向上取組の年間計画（須恵町立須恵中学校）

| 前 期 | | | | | 後 期 | | | | | | |
|---------------------|-----------------|------------------|--------|-------------------|-----------------|----------|---------|----------|----------|----------|-------|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 学力分析テスト | | | 学習実態調査 | | 学力分析テスト | | 学力分析テスト | 学習実態調査 | | 学力分析テスト | |
| 研究構想提案 学力向上プラン提案 | 学年学力向上プランの策定 | 授業改善のための提案 授業 | | 授業づくり研修 学力定着研修 | | 授業改善レポート | | 授業改善レポート | 教科実践のまとめ | 成果と課題の整理 | 次年度構想 |
| | 10分学習 + 学力補充の取組 | | | | 教科の授業改善の取組 | | | | | | |
| | | | | | 10分学習 + 学力補充の取組 | | | | | | |

取組の工夫点

【組織編成の工夫】

研究推進委員会が校内学力向上委員会を兼ね、教務主任（主幹教諭）、研究主任、学力向上コーディネーターが連携して、活動を推進する。

全職員が、授業づくり部と学力定着部の両方に参加する。授業づくり部の研修では教科指導の立場で参加し、学力定着部の研修では学年所属の立場で協議に参加する。

【授業づくりの工夫】

生徒相互のかかわりの中で学力の定着を図る「共同学習」を全教科共通の授業改善の方途として、教科実践に取り組む。

第1回学習実態調査（7月）をもとに、夏季研修を設定し、教科の授業改善に取り組む。さらにその成果を第2回調査（12月）において検証する。

定期考査、学力分析テストに焦点を定め、教科毎に重点的な指導に取り組む（「授業改善レポート」）。

【学力定着の工夫】

学年毎に、生徒の実態に応じた「学年学力向上プラン」を策定し、学年主任を中心とした学年組織（学力定着部）を機能させて指導にあたる。

学力定着部の取組については、職員研修会において異学年合同の分科会別の協議を設定し、情報の交流や指導法の系統化を図る。

取組の実際

【授業づくり】

学習実態調査の結果をもとに改善策を練り、生徒に対して「これからの授業はこうします」として提示し、実践に取り組んだ。

2回の提案授業を実施し、学力向上を図るための授業改善の具体的方策を示し、共通理解を図った。

「共同学習」を位置づけた授業づくりとして、全教師が公開研究授業を実施した。

教科毎に学力向上のための「授業改善レポート」を2回作成し、重点的な指導を実施した。

【学力定着】

<学力分析改善>

教務主任（主幹教諭）、学力向上コーディネーターを中心に学力テストの結果を分析し、学年主任と連携しながら具体的な取組の改善を継続して行った。

<学力補充>

生徒の実態に基づいて、毎日の10分学習と学力補充（金曜日）をリンクさせて、学年毎の独自の取組を工夫し、実施した。

各学級の学習委員への働きかけを強化し、教え合い活動を活性化させ、生徒が互いに切磋琢磨し、成績下位の生徒を置き去りにしない学級の雰囲気をつくるようにした。

取組の成果と課題

4月～2月の学力分析テストの結果、3年生では4.5ポイント、1、2年生では10ポイント以上の向上が見られた。特に、具体的な取組が機能し始めた9月以降に高い伸びを示している（図1）。
縦軸は県平均との差

7月と12月に実施した学習実態調査の結果からは、生徒が教師の手立ての工夫について高い満足度を示していることが明らかになった。

重点的に取り組んだ教科ほど顕著に向上が見られ、教師もその成果を実感することができた。また、生徒の実態や変容の情報を共有化したことで、教師の意識も高めることができた。

学習実態調査の結果だけでなく、学力分析テストの実態を示すというデータの見せ方を工夫したことで、教師の課題意識が高まった。

学力定着のための補充学習の取組については、各学年の実態や発達段階に応じて、取組に系統性・発展性を持たせ、3年間の継続的な指導へとつなげる。

家庭学習の方法についても発展性や系統性を持たせるなど、具体的な支援や保護者への啓発について、効果的な方策を検討する。

教え合い活動などで、核となる生徒の指導力を高める指導を行い、生徒相互の働きかけをさらに活性化する工夫をしていく。

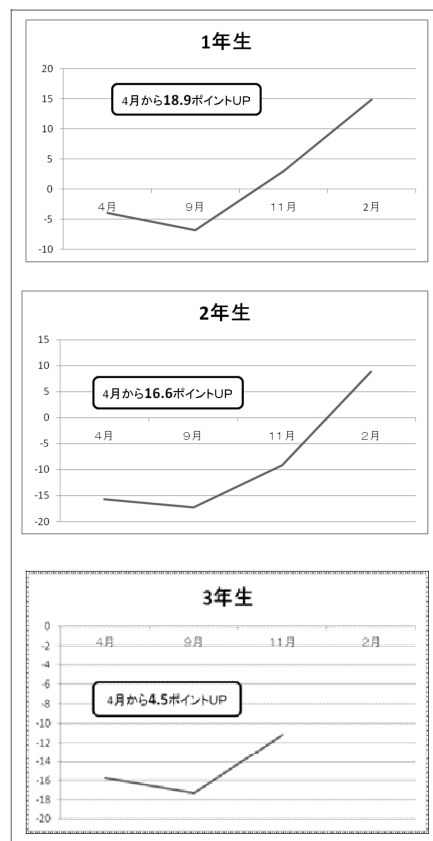


図1 学力分析テスト結果

市町村及び学校における教員研修

市町村における教員研修の状況

県内の約8割の市町村では、児童生徒の学力を向上させるため、教員研修を行っています。小・中学校では、授業改善のStrategy及び学力調査問題を活用した研修や家庭学習に関する研修などの教員研修が行われています。

本県児童生徒の学力実態から、各教科等においては、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが求められています。

そのため、市町村や各学校において、日常の学習指導の充実や学習習慣の形成、学習規律・基本的生活習慣の確立等を図るための教員の指導力を高めることが重要です。

平成24年度市町村における学力向上に関する教員研修の状況

| | |
|--------------------|-------|
| 教員の指導力向上のための研修会の開催 | 81.4% |
|--------------------|-------|

(平成24年度学力向上推進に関する調査)

平成24年度小・中学校における学力向上に関する研修の状況

| 学力向上に関する校内研修の内容 | 小学校 | 中学校 |
|--------------------------|-------|-------|
| ・習熟度別指導 | 59.9% | 45.5% |
| ・繰り返し学習 | 66.0% | 49.8% |
| ・家庭学習 | 76.8% | 64.5% |
| ・授業改善のStrategy及び学力調査問題活用 | 88.4% | 78.2% |
| ・学習指導要領の内容 | 45.8% | 53.6% |
| ・学習評価 | 66.2% | 62.1% |
| ・言語活動 | 79.1% | 84.8% |
| ・その他 | 11.4% | 13.7% |

(平成24年度学力向上推進に関する調査)

市町村や学校における学力向上に関する教員研修の実施にあたって

学力向上に関する教員研修の実施にあたっては、教員一人一人が児童生徒の学力に関する課題を明確に意識した上で、日常の指導を振り返り、どのように授業改善を図ることが必要であるかを具体的にイメージすることが必要です。また、研修内容が、日常の授業に生かされ、児童生徒の学力や学習意欲の向上につながっているか検証することも大切です。

教員研修の実施のポイント

ポイント1

児童生徒の学力・学習状況、教員の指導の状況に基づき、研修内容・方法を焦点化しましょう。

- ・ 研修内容例：学力調査問題の活用、言語活動の充実、学習評価、学習習慣の形成等
- ・ 研修方法例：講話・講義、実践発表、公開授業及び協議会、演習等
必要に応じて、教育事務所や県教育センターの指導主事等に研修内容・方法について助言を求めることも考えられます。
1学期に講義、2学期に公開授業など、年間数回に渡って1つの内容の研修を実施することも考えられます。

ポイント2

研修内容が日常の授業等の改善に生かされてるか状況を把握しましょう。

- ・ 市町村教育委員会においては、学校訪問、学校においては、管理職等による校内視察や企画委員会等の機会を通じて、研修内容が日常の授業等の改善に生かされているか、状況を把握するとともに、必要に応じて指導・支援を行うことが必要です。

教員一人一人が、授業改善の具体的なイメージをもち、日常の授業に生かすことができるように、研修方法を工夫しましょう。



義務教育課ホームページには、学力向上に関する指導資料「学力アップパッケージ」を掲載し、校内研修の進め方「校内研修モデル」例を示していますので活用してください。

<掲載内容>

- ・ 習熟別指導に関する研修
- ・ ドリル学習に関する研修
- ・ 家庭学習習慣形成に関する研修 等

福岡県の学力向上に関する情報満載「学力アップパッケージ」

学力アップパッケージ 検索

福岡県教育委員会 義務教育課

学力アップパッケージ

子ども一人一人の学力向上
— 学校の家庭で活用できる学力向上の指導資料 —

「学力実態調査の結果」報告書
調査結果について様々な視点から分析を行っています(全国調査・県調査)

算数
「数学の理解テスト」

学習指導要領に基づく算数・数学の基礎的・基本的な知識・技能の定着状況を確認するための理解テストの例を掲載しています。

福岡学力アップ推進事業実践事例集
学力向上推進強化資料等における学力向上の具体的な実践事例を掲載しています。

各教育事務所指導資料

2 新学習指導要領で求められる学力を明確にし、授業改善のポイントを共有する

○ 実施時期・時間：1学期・夏季休業中、30分程度
○ 活用資料：平成23年度「全国学力・学習状況調査問題」(以下、「調査問題」という。) 平成23年度福岡県学力実態調査問題 「授業改善のStrategy」(福岡県教育委員会)

(1) 研修会の目的と進め方 (5分間程度)

説明 ① 目的
「授業改善のStrategy」を活用し、学習指導要領で求められる内容を児童生徒に確実に身に付けさせるための授業改善のポイントについて共通理解を図る。
② 進め方

演習 ① 調査問題を解く。
「授業改善のStrategy」で取り上げられている問題に限定し、他の教科・問題ごらずで夏季休業中に解くこととする。
※ 中学校においては、担当教科の調査問題を解く。

(3) 授業改善のポイントについての協議 (55分間程度)

① 目的
「授業改善のStrategy」を活用し、学習指導要領で求められる内容を児童生徒に確実に身に付けさせるための授業改善のポイントについて共通理解を図る。
② 進め方
「授業改善のStrategy」の「改善のポイントと対策(問題の分析)」、「やってみよう(学力向上のための具体的な指導の在り方)」を取り上げて説明を行い、共通理解を図る。
※ 中学校においては、教科別グループに分かれて、教科の主任が説明するなどの方法も考えられる。

教育委員会における学力向上のための教員研修の実際

築上町教育委員会

取組のねらい

すべての児童生徒に確かな学力を保障するため、組織的・計画的な研修に努め、使命感にあふれた実践的な指導力のある教職員の育成を図る。

学力向上という視点からの課題を明確にし、組織的取組を推進することにより、学校としての教育力の向上を図る。

取組の組織

| |
|--|
| 福岡県学力向上検証委員会 |
| 京築ふくおか学力アップ推進事業連絡協議会 |
| 築上町学力向上検証委員会 教育長・委員会学力向上担当課長・委員会学力向上担当者 推進校（町内 2 中学校長）関係学校長（町内 8 小学校長） |
| 小中学校学力向上校内推進委員会 学力向上推進指定校（椎田中学校・築城中学校） |
| 築上町企画委員会 推進校（2 中学校から校長 1、教頭 1） 小学校長代表 教務担当者代表 担当課長 担当課長補佐 担当指導主事 |

取組の年間計画

| 月 | 取組の内容 | |
|-----|------------------|-----------------------------|
| 4月 | 学力向上プランの策定 | 学校・家庭用リーフレットの配布 |
| 5月 | 教育委員会学校訪問 | |
| 6月 | 学力向上検証委員会 | 中学校 C R T 検査結果の報告 |
| 7月 | 学力向上企画委員会 | 学力強化講座の実施 |
| 8月 | 学力向上研修会 | 学力強化講座の実施 |
| 9月 | 学力向上検証委員会学校訪問 | |
| 10月 | 学力向上検証委員会 | 全国学力状況調査結果の報告 小原小学校研究発表会 |
| 11月 | 学力向上企画委員会 | 葛城小学校研究発表会 築城中学校研究発表会 |
| 12月 | 学力向上検証委員会校長ヒアリング | |
| 1月 | 学力向上検証委員会 | |
| 2月 | 学力向上企画委員会 | 学力向上実践交流会 |
| 3月 | 学力向上検証委員会 | 小学校 C R T 検査結果の報告 |

取組の工夫点

学力向上・授業改善のポイントを明確にし、指導技能の向上と新学習指導要領に対応した授業づくりの定着を図る。

学校での組織、計画、実施、評価段階での取組や機能化をめざした校長、教頭、主幹教諭、教務担当者、学年主任、担任等相互の関わり合い方（連絡・調整、指導・助言の在り方）について交流し、学校としての教育力の向上を図る。

取組の実際

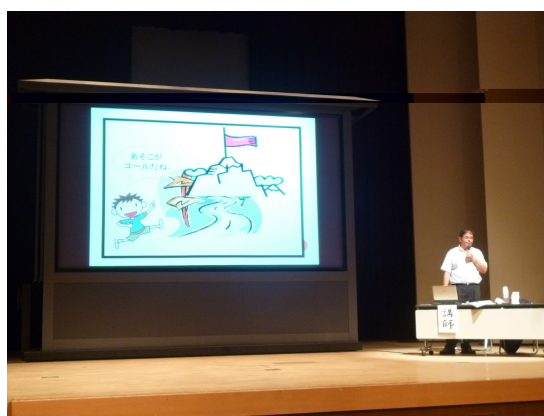
- (1) 教育委員会による学校訪問：平成24年5月
町内全小中学校への学校訪問
事前に校長より提出された「学校経営上の課題と取組」を中心に説明を受け、全学級の授業参観後に指導助言を行い、学力向上の課題を明確にした。
- (2) 築上町学力強化講座：平成24年7月～8月
長期休業中に町内全小中学校で実施
各校の実態に合わせて、対象児童・生徒や教科・内容等を検討し、習熟度別指導等を工夫し3日間以上実施した。
事前に各学校が作成した学力強化講座実施計画書を提出させて講座を実施し、事後には学力強化講座の成果と課題を提出させた。

A校の事前テストと事後テストの誤答の推移（5年）

| | 計 算 | 数のしくみ | 数量関係 | 垂直と平行 | 角 度 | 表とグラフ |
|-------|-----|-------|------|-------|-----|-------|
| 事前テスト | 134 | 43 | 93 | 40 | 92 | 76 |
| 事後テスト | 80 | 16 | 25 | 13 | 31 | 21 |

- (3) 築上町学力向上研修会：平成24年8月22日（水）
町内全小中学校の全教職員を対象にした研修会の実施
講演 学力向上は「授業改善」で
～「授業は逆さにつくる」を通して～
福岡県教育センター 主任指導主事総括 杉嶋 功治

- 1 学力向上の仕組み
 - (1) 学力向上の3ポイント
 - (2) 授業改善のポイント
- 2 授業改善 「授業は逆さにつくる」
 - (1) 「逆さにつくる」理由
 - (2) 授業を「逆さにつくる」とは
 - (3) 本時のねらい（主眼）の明確化
 - (4) 授業は「連想ゲーム」
 - (5) 授業における「連想ゲーム」
- 3 今後の取組
 - (1) 町全体であることを決定
 - (2) 学校がすること
 - (3) 教員の取組



- (4) 築上町学力向上実践交流会：平成25年2月20日（水）
実践発表1 「学力向上をめざす教務運営」
～ステップアップチャレンジの取組を中心にして～
実践発表2 「学力向上をめざす教務運営」

取組の成果と課題

学力強化講座の実施により、算数の事前テストと事後テストにおいて、無解答数が減り正答率の増加がみられた。

学力向上や授業改善のポイントを、具体的に演習を取り入れながらの講演内容であったので、わかりやすく好評であった。

主題研究を通しての教師の力量アップのため、指導案審議の工夫で「授業を逆さにつくる」実践に取り組んだ学校があった。

学力強化講座については、今年度の成果と課題をいかながら、次年度も町内全小中学校で取組の推進を図る。

町内のすべての学校で「授業を逆さにつくる」実践の推進を図る。

習熟度別指導に関する校内研修の実際

小竹町教育委員会（小竹西小学校）

取組のねらい

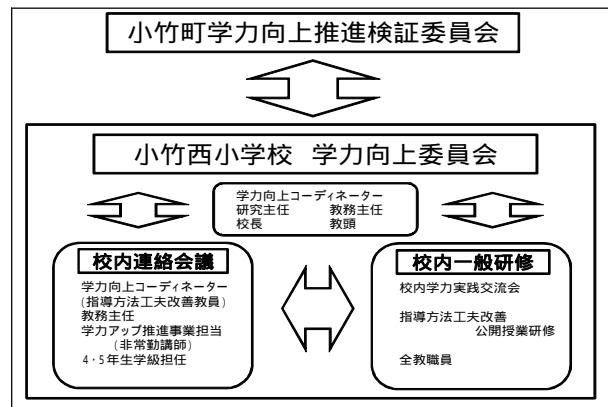
習熟度別少人数クラス（じっくりコース・しっかりコース）編成で、児童の実態に応じたきめ細かな学習指導を行うことで、基礎・基本の定着と活用力の育成を図る。

学力向上の取組を学校全体で推進するための体制を整備し、課題解決に向けて共通理解を図りながら校内研修を行うことで、教職員の資質の向上をめざす。

取組の組織

資料1は、本校の学力向上推進の組織体制である。小竹町では、「小竹町学力向上推進検証委員会」を組織し、学力向上に関する具体的取組の計画・実施・検証を行っている。

それを受け、本校では、校長、教頭、教務主任、研究主任、学力向上コーディネーターで学力向上委員会を組織し、学力向上プランに基づいた取組の計画・実施・検証を行っている。また、習熟度別指導については、学力向上コーディネーター、教務主任、学力アップ推進事業担当（非常勤講師）4・5年生学級担任が定期的に校内連絡会議を行っている。

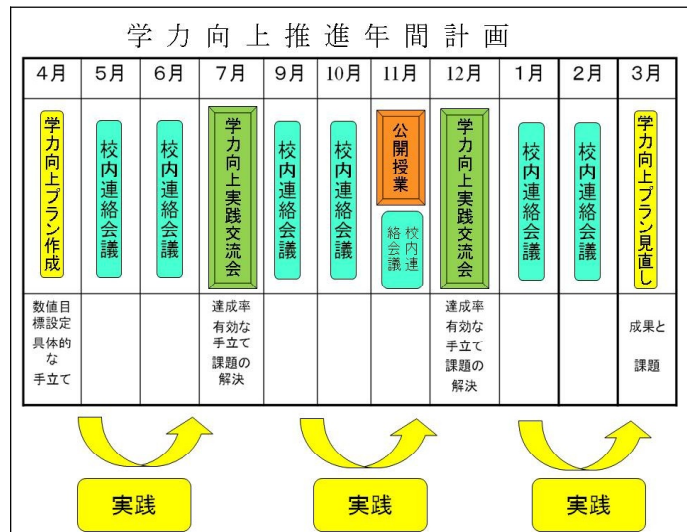


資料1 学力向上推進組織

取組の年間計画

資料2は、学力向上推進年間計画を示している。まず、4月に学力向上プランを作成する。学年ごとにどんな力を身に付けさせるのかを学力向上プランに明確に位置付け、具体的な内容と数値化した目標を掲げる。ここでは、発達段階や子どもの実態に照らし、各学級で設定された数値目標の妥当性と具体的方策の実効性を判断する。特に算数科における習熟度別指導の推進については、毎月1回校内連絡会議を開いている。また、学期末には、学力向上実践交流会を設定している。

校内研修としては、定期的に学力向上と教員の資質向上に関する研修を行っている。さらに、年1回指導方法工夫改善の授業公開と協議会を行い、算数科における問題解決学習や習熟度別指導の効果について、検証している。そして、3月には学力向上プランを見直し、来年度に生かすようにしている。



資料2 学力向上推進年間計画

取組の工夫点

学力向上をめざした習熟度別指導の効果的な取組を推進するための組織体制づくりと年間計画に基づいた研修を実施する。

校内連絡会議、学力向上実践交流会、校内研修、公開授業等を通して、全職員の共通理解を図り、教員の資質向上を図る。

取組の実際

1 校内連絡会議

校内連絡会議では、学力向上コーディネーター、教務主任、学力アップ推進事業担当、4・5年生担任が、習熟度別指導についての取組状況を交流し、資料3に示される問題解決的な学習をめざした学習過程の工夫やノート指導の工夫等の情報交換を通して、6年間を見通した学習指導の在り方を検証した。

また、小竹町学力向上推進検証委員会で審議・提案された内容について、校内連絡会議において、教材分析や教材教具の工夫、具体的な取組方法等習熟度別・課題別学習の具体化について協議し、取組を進めてきた。校内連絡会議で協議した内容については、職員研修等で提案・協議し、学校全体の取組となるように努めた。

【学力向上重点取組】

問題解決的な学習をめざした学習過程の工夫
「問題提示」「見通し」「つくる」「発表・交流」「まとめ」の位置付け
条件をふまえた「書く活動」の位置付け（SWIH、キーワード等）
「自分の考えをつくる活動」の位置付け（絵、図、等）
「めあて」「自分の考え」「振り返り」等のあるノート指導の工夫
子どもの意欲を高め、基礎・基本の力をつけるための指導
学習規律を確立し、学習に落ち着いて向き合う環境づくり
算数科における個別指導体制の確立（習熟度別指導）
教材分析と教材教具の工夫
指導方法工夫改善の公開授業の実施
教師同士の学び合いのための審議会や学力向上実践交流会の位置付け

資料3 学力向上重点取組

2 職員研修

資料4は、習熟度別指導における各学習集団への指導方法である。各学習集団の実態に応じて、問題解決的な学習指導をしていく上での手立てのちがいを明確にし、児童が自力解決に向かうように、職員研修で共通理解を図った。

【じっくりコース】

レディネスが不十分な児童が多いので、前学年や前単元の復習の時間を確保する。単元前半は、問題解決的な学習よりも問題提示型の学習を多く取り入れ、後半になるに従って問題解決的な学習を少しずつ取り入れる。
「問題が解ける」「できるようになる」ことを重視し、分かることは目標としてとらえる。数学的な考え方を引き出す場合や問題場面を把握させる場面では、具体物や半具体物を使って、理解を促す。

【しっかりコース】

既習の学習が理解できている児童が多いので、自力解決していく時間を確保する。単元全体を通して、問題解決的な学習を取り入れる。自分の考えを友だちと交流させる中で、数理を見出していけるように誘導する。自分のペースに合った計算問題が解けるように、計算プリントを準備する。

資料4 習熟度別指導における各学習集団への指導方法

3 学力向上実践交流会

7月と12月に学力向上実践交流会を実施した。そこでは、各学級の学力向上プランの評価と授業改善に向けた取組を交流することで、本校の課題について共通理解を図り、効果的な取組を共有化することをねらった。

4 指導方法工夫改善公開授業

11月に指導方法工夫改善の公開授業を実施し、算数科における問題解決学習の在り方について検証してきた。第2学年「かけ算(2)」の単元において、どんな計算になるのか、絵や図をかいて自力解決ができるようになることをねらった授業であった。協議会では、個に応じた有効な支援であったか、習得したことを活用し、自力解決ができたかという点で協議した。また、主題研究と関連して算数科における系統性についても論議を深めることができた。



第2学年 算数科公開授業の様子

取組の成果と課題

校内連絡会議を中心に、学力向上プランに基づいた学力向上の取組を組織的に行うことができた。

学力向上実践交流会や職員研修を通して、教師の資質が向上した。

習熟度別指導の効果的な在り方について、教材分析や教材教具の工夫等検証していく職員研修が必要である。

「授業改善のStrategy」及び学力調査問題の活用に関する校内研修の実際
志免町教育委員会（志免中央小学校）

取組のねらい

学力調査問題と調査結果分析を行い、授業改善の方策について検討を図る。
国語科（本校研究教科）において確かな読解力を身に付けさせるべく、研究授業を通して授業づくりの方策を図る。

取組の組織

取組組織の確立

| | |
|---------|---------------------|
| 教 頭 | 研修内容の指導助言と講師等との連絡調整 |
| 主幹教諭 | 研修内容の具体的検討と研修日程の調整 |
| 研究推進委員会 | 授業改善研修会の実施 |

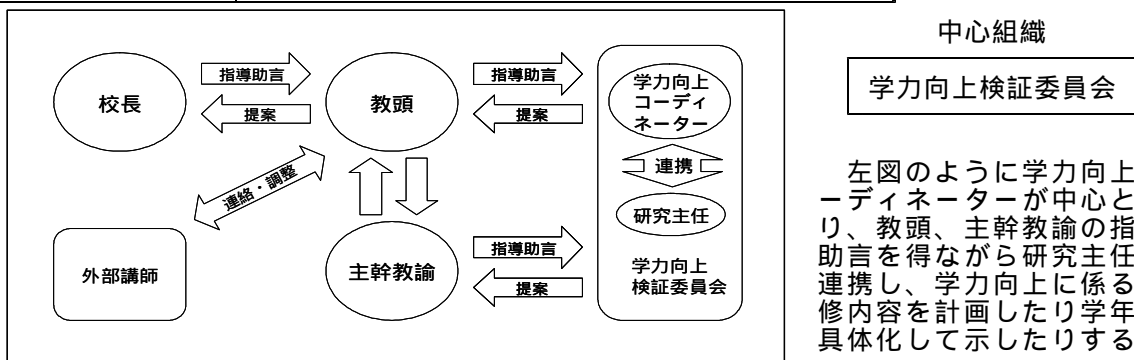


図 取組組織図

取組の年間計画

年間を見通した研修日程の作成

| | |
|-------|--|
| 4月 | ・研究構想の提案及び学力向上プロジェクト部会の設置 |
| 5月～6月 | ・提案授業の実施 |
| 夏季休業中 | 学力向上夏季研修会の実施 授業改善のstrategy及び学力調査問題の活用に関する研修会の実施 |
| 9月～2月 | ・全職員による研究授業の実施 |

取組の工夫点

学力・学習状況調査問題と県学力実態調査問題から学習指導で改善すべき点や該当学年の単元指導において改善すべき点を挙げ、具体的方策とすること。

講師招聘による専門的な解説を通して、本県の学力実態についての理解を深めるとともに、その課題解決の立場に立った授業づくりの在り方を追究すること。

取組の実際

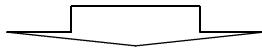


平成24年7月27日

学力向上夏季研修会

国語B問題と算数B問題を各自解き、答え合わせをする。

各学年、特別支援学級（さくら学級）、少人数指導担当に分かれて、「学習指導で改善すべき点」と「該当学年の単元で改善すべき点」を柱に協議を行い改善策を立案する。



平成24年 8月27日

授業改善のstrategy及び学力調査問題の活用に関する研修会

小・中学校ともに、A問題に対してB問題の平均正答率が低い状況にある。

平日に家庭学習を「全くしない」児童の原因を分析し、実態に応じた家庭学習の習慣化を検討する必要がある。

平成24年 9月27日

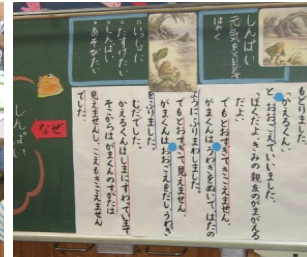
研究授業...第2学年国語科：単元名「場面ごとに人物のしたことや気持ちに気をつけて読もう『お手紙』『ひとりきり』」



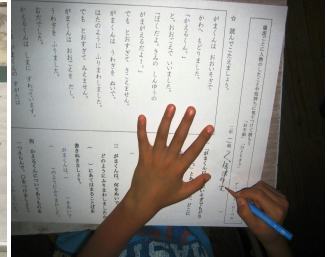
家庭学習(予習)したことをシールで確認



活発な交流



発展教材を読み解く



毎時間末の確認テスト実施



授業後の反省会で明らかになったこと

活用する力を一層育むために発達段階に応じてペア対話の内容や手順を明確にし積み上げを図る。

子ども自身が自分の言葉で学習をまとめる手立てを工夫する(ホワイトボード活用)。



平成25年 1月22日

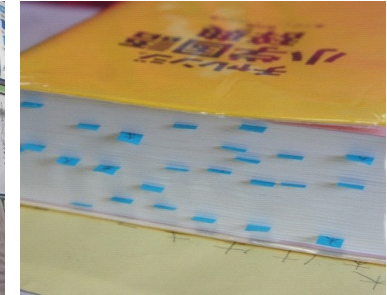
研究授業...第5学年国語科：単元名「調べたことを伝えよう『森林のおくりもの』」



授業のポイントをペア対話で確認



ホワイトボードを使って学習のまとめ



国語辞典の積極的な活用

取組の成果と課題

活用する力の育成や家庭学習等、夏季研修会を通して明らかになった課題解決の方法を研究授業を通して明らかにすることができた。

家庭学習と日常の授業を結び付けることでの学習内容の定着を図ることができた。

授業にペア対話や発展教材、ホワイトボードを使っての学習のまとめ、毎時間末の確認テスト問題を設定したことで、子どもの活用する力の育成に努めることができた。

国語科以外の教科についても、活用する力の育成を主眼とした授業づくりの在り方を究明する必要がある。

繰り返し指導に関する校内研修の実際

上毛町教育委員会（唐原小学校）

取組のねらい

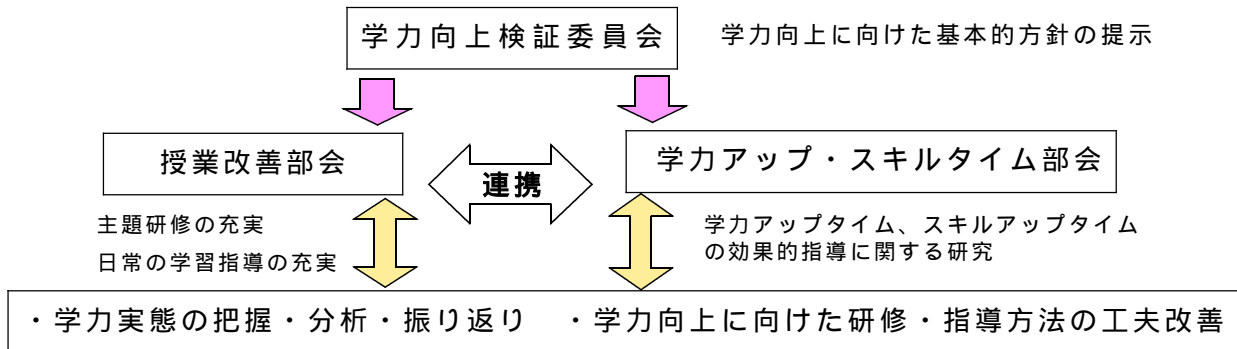
基礎的・基本的事項の定着に繰り返し指導は欠くことができない。しかし、同様の内容を実施しても、学級によりその効果にはばらつきがある。そこで、繰り返し指導に特化した研修を行い、全教職員の共通理解のもと、組織的な取組ができるようにした。ねらいは次の通りである。

繰り返し指導の必要性、実践の有効性等についての共通理解を図り、共通認識に立った実践の強化を図る。

繰り返し指導の効果的指導の研修を通して教師の指導力量の向上を図る。

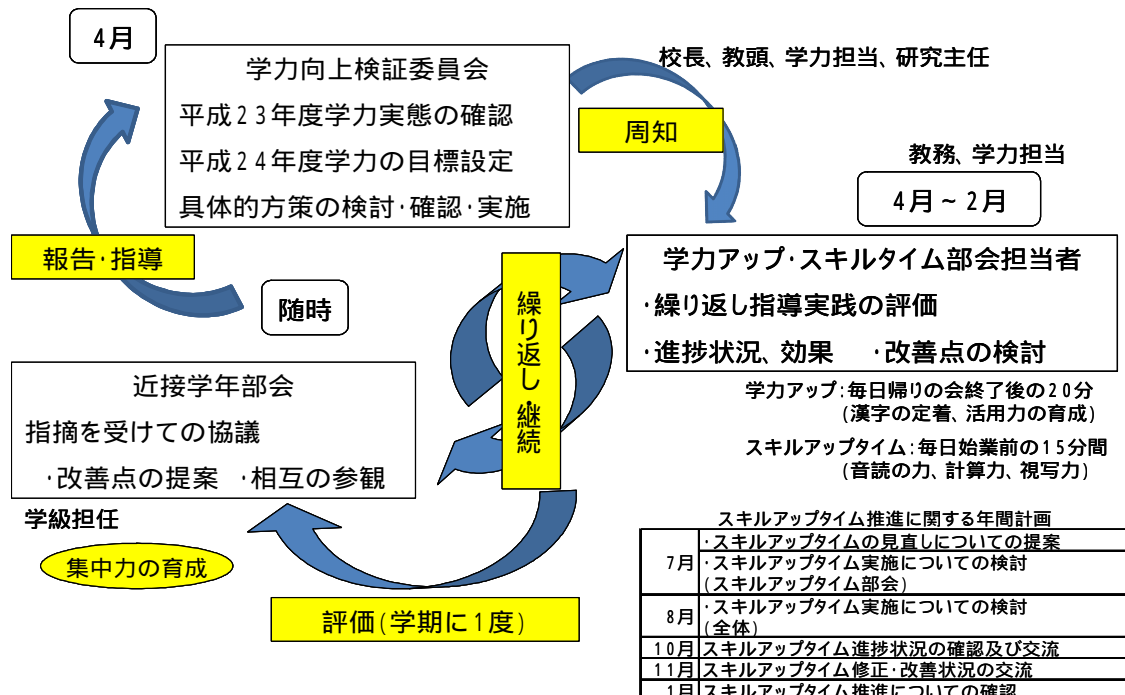
取組の組織

唐原小学校では学力向上を図るために「学力向上検証委員会」を中心に、「授業改善部会」、「学力アップ・スキルタイム部会」2つの部会の相互関連を図りながらも、それぞれの役割の明確化を図り、相互の主体的な実践が行えるように配慮した。



取組の年間計画

学力アップタイム・スキルタイムの質的向上を図る繰り返し指導に係る研修



取組の工夫点

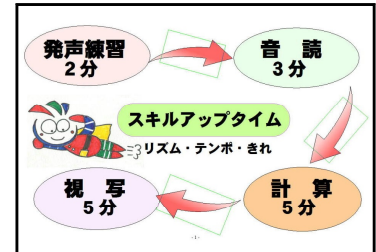
「学力向上検証委員会」「学力アップタイム・スキルアップタイム部会」「近接学年部会」の3者の効果的関連を図る。

「近接学年部会」を実践検証と位置づけ、部会からの改善策や新しいアイデアを提示させるボトムアップ型の研修により改善を図る。

教員相互の実践を交流評価し、質的向上を図る。

取組の実際

実践例：「スキルアップタイム」効果的運用に関する研修
まず、発声練習2分、音読3分、計算5分、視写5分という15分間の流れを確認した。流れの必然性を理解し、その後、それぞれの指導内容を確実に定着させるための協議を行った。



確認事項：発声練習では、切る音、伸ばす音、滑舌の指導を行う。

音読は、「唐原小学校音読集」を元に行う。

計算は、フラッシュカードなどを活用して、全員が一斉に行う内容とする。

視写は、教科書教材、詩、新聞など多様な内容から教材を選定する。

15分間は、教師による丁寧な指示・説明のもと、効果的に行えるようにした。相互参観を通して、効果的な指導に向けた改善の視点も持たせた。また、近接学年部会で実施上の課題を明確にし、改善策を提示し試行するというサイクルで実践の質の向上を図った。円滑なサイクルが定着するためには、近接学年部会は必要に応じて開催すると同時に進捗状況は「学力アップタイム・スキルアップタイム部会」に報告するシステムも作成した。実践の継続化を図るため月に1回、学年を指定し参観と意見交換も行った。

実践例：「学力アップタイム」の効果的運用に関する研修

漢字力や活用力の育成、定着不十分な学習内容の指導の在り方についての研修を行った。

| | 漢字検定 | 活用力の育成 |
|------|--|---|
| 研修内容 | 漢字検定の実施方法、採点 児童への意識づけ、習得した漢字の活用 定着不十分な児童への指導 | 学力テスト問題を全員で解き、課題解決に向けた方策を協議 教材の開発に向けた協議 実施の評価 |

研修の進め方は、上記と同様の方策をとった。進め方を同様にすることにより、円滑な研修の推進を図った。

取組の成果と課題

繰り返し指導を校内研修に位置づけたことにより、「学力アップタイム、スキルアップタイム」を各学級が同じ指導方針・方法のもとで実践することができ、各学級とも一定の成果を見ることができた。

実践 ⇄ 振り返り ⇄ 改善 ⇄ 実践というサイクルで研修を進めることによって、教員の繰り返し指導に対する認識やよりよくしようとする意識の高まりが見られた。

多様なアイデアにより指導方法の広がりが見られた。

繰り返し指導は個々の多様なアイデアによって、児童の実態に応じたより適切な指導方法を見出すことが期待できるため、教員の創意工夫が生かされる研修の方法を模索する必要がある。